

「海に若布と昆布の森をつくった鎌田家の四男坊大槻洋四郎氏の養殖発明」、と言うタイトルで、講演会（主催：宮城県大崎市鹿島台文化協会、共催：大崎市教育委員会）が、2023年6月10日に、洋四郎氏の出身地である大崎市鹿島台（図1）行われた。この講演会は、品井沼を干拓し、広大な農地を生み出した、鎌田三之助翁の生誕160年を記念して行われたものである。聴衆は134名（図2）で、講演の合間には、鹿島台童謡を歌う会による合唱や、若布の試食会もあった。なお、洋四郎氏は三之助翁の四男で、宮城県登米市登米町の大槻家の婿養子となり、大槻の姓となっている。三之助翁は衆議院議員となった後、鹿島台村長を無給で務め、質素儉約をモットーに村の財政を立て直し、今でも草鞋村長と呼ばれ、慕われている。

鈴木光太郎氏（鹿島台歴史研究会）は、鹿島台村にはかつて品井沼と呼ばれた広大な湿地帯があり、農民は度々洪水による飢餓に見舞われてきた。同氏はこの品井沼の干拓を、江戸から明治にかけ主導した鹿島台村の鎌田家三代（玄光、三次、三之助）について話された。特に三之助翁の代に、明治潜穴排水路が開削され（1910年、図1）、品井沼の水を松島湾に流出させて、湿地帯を農地に変えたことを紹介された。またその後の利水と治水により、「人と生物の共生」も図られるようになり、大崎耕土が2017年に世界農業遺産に指定された経緯も紹介された。

大槻洋四郎氏の長女・大槻一枝氏は「中国の昆布に寄せて- 黎明期の昆布養殖と共に- 」という題で、約1時間講演された（図3）。講演の内容は、父が中国・大連の関東水産試験場に勤務するようになった経緯、中国にはほとんど生息していない若布と、全く生息していない昆布を養殖するという発想に至った背景、敗戦によるロシア軍の侵攻、及び国共内戦による山東半島の山村での極限の疎開生活、そして昆布の養殖法を確立するまでに経験した苦難の道、等について話された。最後に、終戦後に行われた山東省でのコンブの養殖技術の開発は、初期のささやかな日中合作によるものと位置付けた。なお一枝氏は山東省で行ったコンブの養殖研究において、父の研究助手として、

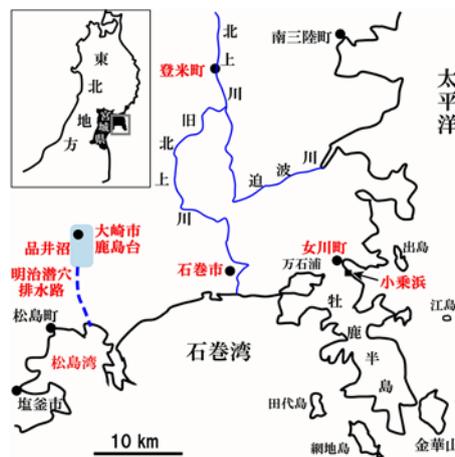


図1 宮城県北東部と本講演会に関連する地域（赤字）



図2 講演会の聴衆

また通訳として活躍されている。

引き続き筆者は「大槻洋四郎氏による若布と昆布の養殖とその意義」について、約1時間、以下のような話をした。若布の養殖は、筏式養殖法と乾燥刺激法の発明により、1938年（洋四郎氏 37 才）に可能となった。しかし、黄海の夏の水温は 30℃にもなり、昆布の養殖には失敗した。この問題は 14 年後の 1952 年（51 才）に、昆布の苗を海面付近の過酷な環境下で育成し、環境変化に強い苗にすることにより解決した。この年に中国政府は洋四郎氏の中国抑留を解いている。そのような理由で、洋四郎氏は中国での昆布の完全養殖を実践することはできなかったが、中国人の仲間達はこの技術を更に発展させ、現在では海南島でも昆布が生産できるようにした。洋四郎氏は子供たちに「竜宮城のように海藻が茂り、小魚が舞う海を作ることが夢」と話しておられたという。この夢は「海の森づくり推進協会」の理念「沿岸水域の環境保全」とも合致している。70 年以上前に、戦中戦後の混乱

した中国の海に、竜宮城を造ろうと、若布と昆布の養殖技術の開発研究に打ち込んでいた、一人の日本人がいたことに、我々は誇りに思う。洋四郎氏は 1953 年に帰国し、宮城県女川町小乗浜で若布の養殖を行う。研究開発費の捻出のため、特許の取得も考えるが、漁民のことを考え、取得を断念している。このような考えは父鎌田三之助翁の精神と共通するものである。また宮城県での若布養殖の普及においては、宮城県水産試験場の内海宏氏の貢献が大きい。同氏は三之助翁の次男の内海捷次郎氏の次男である。鎌田家が若布と昆布の養殖技術の開発と普及に、多大な貢献をしたことが分かる。洋四郎氏は中国の漁業関係者からも慕われ、日中国交正常化(1972 年)が成された後、大槻氏が逝去(1981 年、享年 80 才)された後までも、多くの中国人が「大槻詣」と称し、登米町を訪れている。

引き続きパネルディスカッション(図 4)が三名の後援者と佐々木勝利氏(石巻市・長寿ワカメ本舗、洋四郎氏と交流のあった若布業者)、及び伊藤克秀氏(司会)で行われた。ここで佐々木氏は 20 歳前に仲間と共に神奈川県横須賀市や千葉県富津市に行き、洋四郎氏の若布養殖指導を補助した。そこで同氏は孟宗竹で筏を組み、女川で育てた苗をシュロ縄に挟んで筏に吊るす作業等をしたという。



図 3 大槻一枝氏の講演



図 4 パネルディスカッションの様子とパネリスト(右から左に、鈴木光太郎氏、佐々木勝利氏、筆者、大槻一枝氏、鎌田翁に扮した伊藤克秀氏)